

令和5年度南米・北米 訪問事業 報告書

1 訪問概要

南米にある県人会の活動を支援し、本県と現地の県人との友好親善と関係強化を図るため、令和5年11月にブラジル連邦共和国で開催された「ブラジル香川県人移住110周年記念式典」、パラグアイ共和国で開催された「パラグアイ香川県人会創立50周年記念式典」等に参加し、祝意を表するとともに、移住された方々の労苦に対し敬意を表した。

また、経由地であるアメリカ合衆国ロサンゼルス市では、本県の栗林公園と姉妹庭園提携を締結しているハンティントン財団庭園を訪問し、両庭園の友好関係の強化を図るとともに、今後の情報発信等に係る提案を双方が行うなど、具体的な意見交換を行った。

2 訪問期間

令和5年11月10日（金）～令和5年11月19日（日）※詳細は、別紙「日程表」のとおり

3 訪問国

パラグアイ共和国（アスンシオン）、ブラジル連邦共和国（サンパウロ）、
アメリカ合衆国（ロサンゼルス）

4 訪問者

香川県知事	池田 豊人
香川県議会議長	新田 耕造
香川県議会議員	氏家 孝志
香川県議会議員	白川 和幸
香川県議会議員	里石 明敏

随行職員4名（知事部局2名、議会事務局2名）

5 主な行事

- ・パラグアイ香川県人会創立50周年記念式典・祝賀会
- ・日系社会福祉センター訪問
- ・JICAパラグアイ事務所訪問
- ・在パラグアイ日本国大使公邸での懇談会
- ・在パラグアイ日本商工会議所訪問
- ・ブラジル香川県人移住110周年記念式典・昼食会
- ・ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑参拝
- ・在サンパウロ日本国総領事館訪問
- ・ジャパン・ハウス・サンパウロ訪問
- ・ブラジル香川県人会会員農園訪問
- ・ハンティントン財団庭園訪問
- ・ジャパン・ハウス・ロサンゼルス訪問
- ・在ロサンゼルス日本国総領事との夕食会
- ・Tokyo Central（現地日系スーパー）視察

6 行事の詳細

(1) 日系社会福祉センター訪問

日 時	令和5年11月11日(土)14:15~15:25
場 所	日系社会福祉センター
対応者	パラグアイ日系・日本人会連合会 会長 檜垣 竜介氏 同 事務局長 菊池 明雄氏
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイ日系・日本人会連合会檜垣会長からパラグアイにおける日系人移住の歴史、日系社会福祉センターの概要、高齢者福祉に関する活動内容、パラグアイ日系・日本人連合会の活動内容等について説明を受けた (①)。 ・その後、同センター玄関で同センター設立に貢献された神内 良一氏、笠松 尚一氏 (いずれも香川県出身) の胸像を見学し、記念撮影 (②)。 ・施設内に戻り、現在展示準備中の移住に関わる資料について、説明を受ける (③、④)。
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・1936年に笠松 尚一氏 (パラグアイ香川県人会初代会長) が、ラ・コルメナ移住地に入植した日が、パラグアイにおける日本人移住が始まった日とされている。 ・パラグアイには、アスンシオンやエンカルナシオン、ラ・コルメナ等の日本人移住地があるが、ラ・コルメナ以外は戦後に移住が開始されている。 ・日系社会福祉センターでは、老人クラブが月1回開催されている。高齢者にとって、定期的が集まることが生きがいになっている。イベントとして、シルバー川柳コンクールを開催しており、好評である。 ・デイサービスも行っており、ボランティアのサポーターに対し、研修も行っている。 ・連合会は、基金を運用しており、その運用益で環境整備を行っている。 ・パラグアイ日本人移住50周年から連合会としての式典を開始し、60周年時に式典において移住資料を展示した。その際に集めた資料の一部を日系社会福祉センターで保管しており、移住資料館として今後公開することを検討している。 ・移住の際に日本から持参した荷物や農機具、各移住地の当時の写真、過去に発行された刊行物等が展示されており、移住者の御苦勞を今に伝える内容となっている。

①



②





(2) パラグアイ香川県人会歓迎夕食会

日 時	令和5年11月11日(土)19:15~21:25
場 所	レストラン「Hiroshima」
出席者	パラグアイ香川県人会役員等10名 (顧問 平井 孝吉氏、会長 山西 司朗氏 外)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県人会役員、訪問団の紹介後、山西会長から主催者挨拶 (①)。 ・ その後、知事挨拶 (②) 及び議長による乾杯の発声 (③)。 ・ 歓談の後、平井顧問から挨拶 (④) があり、記念品交換 (⑤、⑥)。 ・ 記念撮影 (⑦) 後、閉会。
平井顧問 挨拶要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラグアイ香川県人会初代会長である笠松尚一氏から会長職を引継ぎ、各種活動に取り組んできた中で、ラ・コルメナにおける農業支援として、JICA と連携した余剰農産物の加工事業が印象深い。 ・ 同事業では、香川県からの技術者派遣を受け、また、パラグアイから香川県に研修員を派遣し、相互交流が行われ、同事業で香川県から派遣されたメンバーとは、現在でも交流が続いている。 ・ パラグアイ香川県人会でも世代交代が進み、二世、三世の時代となっている。香川県生まれでない彼らと香川県の若い世代との交流の輪を広げたい。 ・ 将来的に、香川県とは経済交流が必要と考えている。県産品の展示・販売等ができればと考えており、今後も協力していきたい。





(3) パラグアイ香川県人会創立 50 周年記念式典・祝賀会

日 時	令和 5 年 11 月 12 日(日) 記念式典 10:30~12:00 祝賀会 12:30~14:30
場 所	シェラトン・アスンシオン
出席者	来賓 駐パラグアイ日本国特命全権大使 中谷 好江氏 在パラグアイ日本国大使館 領事 橋本 真志氏 JICA 国際協力機構パラグアイ事務所長 高島 千佳氏 パラグアイ日本人会連合会会長 檜垣 竜介氏 パラグアイ日本都道府県人会連合会会長 栗田 馨氏 県人会会員、他県県人会長、日系団体役員等 約 70 名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県人物故者に対する黙とう、パラグアイ・日本両国歌斉唱の後、パラグアイ香川県人会山西会長の式辞 (①) が述べられる。 ・ 続いて、池田知事 (②)、新田議長 (③)、中谷特命全権大使 (④)、パラグアイ日本人会連合会 檜垣会長、パラグアイ日本都道府県人会連合会 栗田会長による祝辞。 ・ 次に、池田知事及び新田議長から移住高齢者表彰 (⑤)、記念品贈呈 (⑥) 等が行われ、受賞者からの謝辞が述べられ、記念式典が閉会となる。 ・ 参加者全員による記念撮影 (⑦) の後、祝賀会が催される。 ・ JICA パラグアイ事務所 高島所長による乾杯の音頭 (⑧) の後、歓談 (⑨)。 ・ 和太鼓のパフォーマンス (⑩) の後、閉会となった。
山西会長 挨拶要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1973 年に当時の金子知事の推奨で、故笠松 尚一氏がパラグアイ香川県人会を設立してから今年で 50 年を迎えるが、これまでの会長は長期継続して職務についており、私で 3 代目である。これも、会員の支援を受け、安定した運営ができていたためである。 ・ 県人会では、日本・パラグアイ交流展に毎回参加し、香川県の紹介を行ってきたほか、これまで、パラグアイの竹を用いた団扇づくりや「団扇デザインコンクール」の開催、うどん打ち講習会の開催などにより、郷土香川の魅力を当地で伝えている。 ・ 県人会活動を今後も継続していくためには若い力が必要となる。現在の役員は、二世が中心であるが、今回の記念式典では、三世が司会を務めている。 ・ 今後は、若い世代がパラグアイで培った感性を生かし、県人会を運営していくことを期待している。





(4) JICA パラグアイ事務所訪問

日 時	令和5年11月13日(月)10:30~11:50
場 所	JICA パラグアイ事務所
対応者	所長 高島 千佳氏、次長 若林 敏哉氏 外
説明要旨	<p>高島所長によるブリーフィング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイは日本の1.1倍の国土に約700万人が住む。 ・南米においては、スペイン語のみを公用語とする国が多い中、パラグアイではスペイン語とグアラニー語の2つの言語が公用語となっている。 ・1936年に日本からの移住が開始され、2026年に移住90周年を迎える。 ・パラグアイでは、日本人の勤勉性が評価されており、中谷大使の言葉を借りると「超親日国」である。 ・大豆の生産が世界第6位、かつ、輸出額では世界第3位の規模を誇る。 ・JICAは1974年にパラグアイ事務所を設立し、2024年に開所50周年を迎える。JICAの強みは、「現場に人がいる」ことであり、専門家や協力隊員が現地に長く住み、一緒に相談しながら課題解決に向けた対応ができることである。 ・これまでは、インフラや施設整備といった支援を中心に行ってきたが、現在は持続的経済開発を行っている。例としては、トマトやマテ茶、豚肉のバリューチェーン強化や小規模農家に対する金融教育、農作物のパラグアイ独自の品種開発、牛肉を対象とした品質・衛生対策として、品質管理やサーベイランス指導等である。 ・一方で、インフラに関しては未だに整備が十分でない面があり、輸出の強化を目的とした道路整備、パラグアイ川の水位を維持するための浚渫(しゅんせつ)船の貸与、送電線開発、上下水道の整備も行われている。 ・人材支援に関しては、日本への研修員派遣を継続して行っており、これまでの派遣人数は4,600人に及ぶ。研修員に対しては、日本で学んだことをパラグアイで活かすべく、帰国後のアクションプラン作成等の支援も行っている。 ・パラグアイでは、日系社会の活動が活発であり、他の南米諸国と比べ、日本語のビジネス会話ができる人材が多いため、日系人と連携すれば、日本・パラグアイ両国の文化を理解した人材によるサポートが受けられるため、企業進出がしやすい。

	<p>・パラグアイは「南米のハート」と称されており、パラグアイを入り口として、ブラジルやアルゼンチン等の南米諸国のマーケットへの参入が可能である。</p>
意見交換等	<p>○：当方コメント ●：先方コメント</p> <p>○パラグアイからアジアやヨーロッパへ輸出しようとする、コストが掛かることが想像されるが、物流面のハンデはどのように克服できるか。</p> <p>●他国への輸出が規定内だと税制優遇を受けられるマキラ法によるメリットを享受できる。2025年にブラジルからパラグアイ北部のチャコ地方を通りチリまで伸びる南米大陸横断回廊が開通予定であり、物流が大きく変わる可能性がある。</p> <p>●南米大陸横断回廊を利用することで、パナマ運河を通過するより輸送費が安価になるとの研究もあり、注目を集めている（パナマ運河は、乾期に水位が下がると大型船の通行ができず、待機に要するコストを勘案すると、南米大陸横断回廊を利用する方が安価になる可能性がある）。</p> <p>○日本は現在、労働力が不足しており、多様な人材の活用をしているが、国内の人材だけではまかなえなくなると予想される。パラグアイから日本に技術を持った人材として来てもらえる可能性はあるか。</p> <p>●パラグアイの人口構成は、若年層が多いピラミッド構造をしている。専門学校で知識を習得すれば、ビジネス会話にも対応できるような日系人が多数いる。高知県では、県内の専門学校に外国人も入学しやすいよう、多言語対応していると聞いている。</p> <p>○日本で教育をするとコストが高くなるため、パラグアイで事前研修ができれば企業としても受け入れやすい。パラグアイに来てみて、日系人はまじめで誠実な人が多い印象を受けた。県内の企業に、まだパラグアイの魅力が伝わっていないと感じる。</p> <p>○パラグアイの日本語学校の現状は。</p> <p>●パラグアイには日本のアニメや文化に興味を持った人が多く、パラグアイ日系・日本人会連合会等が運営している日系人対象の学校のほかにも、アスンシオン市内に非日系人対象の学校もある。</p> <p>○南米進出を検討している企業の支援を中心にしていけばいいと考える。</p> <p>●JICAでは、毎回対象国が変わるが、南米諸国と日系企業のマッチングを行っている。</p> <p>○パラグアイでは、農業機材の購入はすべて自前で行う必要があり、また、災害時の保証がなく、農業収入が安定しないと聞いた。日本の農協のいい部分を導入できないか、また、日本の設備を知ってもらえないか。</p> <p>●日本の農機具は、パラグアイでの大規模生産には合わないため、ブラジルから輸入されている。日本のノウハウ、技術をどのような局面で活かせるか探っていくことが課題。</p>



高倉所長によるブリーフィング



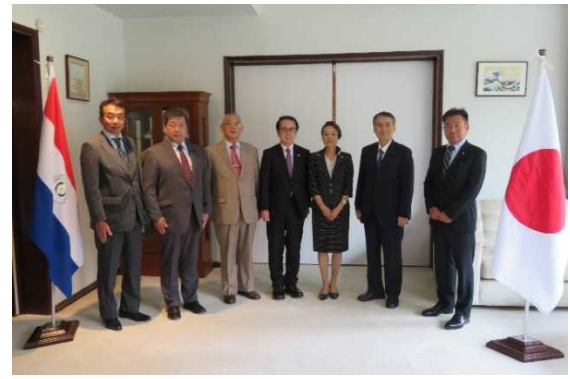
記念撮影

(5) 在パラグアイ日本国大使公邸での懇談会

日 時	令和5年11月13日(月)13:00~14:30
場 所	在パラグアイ大使公邸
対応者	特命全権大使 中谷 好江氏、参事官 井上 琢磨氏、領事 橋本 真志氏
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷特命全権大使より昼食会形式のブリーフィングを実施いただく。 ・昼食会后、記念品を贈呈し、記念撮影。
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイでは、日本食が広まっており、日本食材店では、パラグアイで生産された納豆も販売されている。元々、パラグアイでは肉やイモを中心とした食事であったが、日系人の影響で野菜を食べるようになった。 ・平成28年に日本人移住80周年を記念して開催された日本祭では、パラグアイ全土に居住する日系人が1万人なのに対し、パラグアイの方も多く来場し、2万人もの人が集まった。有料だったにもかかわらず、日系人のイベントであれば楽しいに違いないと評判になったためと思われ、また、日系ではない企業も、日系人のサポートをしたいとスポンサーになってくれた。 ・パラグアイと日本との関係は、1919年に外交関係が樹立した後、1936年に日本人の移住開始、1950年以降は経済協力が開始され、100年以上の歴史を持つ。両国関係の土台が築かれているので、これからは製造業等の直接投資を促進する段階に来ている。 ・パラグアイ大統領府には塙がなく、銃を持った兵もいない。それだけ治安がよく、社会が安定している証左である。 ・パラグアイは、中途半端に鉱物資源を持たないがゆえに、国際的な市況にあまり左右されず経済が安定している。 ・パラグアイには、日系医師会があり、耳鼻咽喉科以外は日系医師が存在する。緊急の場合にも日本語で通じるため、安心感がある。また、アスンシオンには日本人学校もある。



懇談の様子



記念撮影

(6) 在パラグアイ日本商工会議所訪問

日 時	令和5年11月13日(月)14:45~16:00
場 所	在パラグアイ日本商工会議所
対応者	会頭 黒崎 デニス 幸雄氏 外役員 6名
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・在パラグアイ日本商工会議所は、1975年に設立。設立時14会員だったが、現在では53会員となっている。パラグアイ香川県人会初代会長である故笠松 尚一氏が初代、第3代、第14代の会頭を務めた。 ・パラグアイは通貨が安定しており、毎年4%の経済成長を維持している。本年8月にサンティアゴ・ペニャ・パラシオス大統領が就任したところだが、政治的にも安定している。同大統領は、50万人の雇用創出を公約として掲げている。 ・労働時間は、1日8時間または週48時間以内だが、フレキシブルな対応が可能。パラグアイの国民は勤勉であり、また、人手に対して仕事が不足しているため、しっかり働き頑張る。 ・労働ストライキは他の南米諸国と比べ少ない。 ・エキスパート人材は限られるが、日本から進出している会員企業の中には、企業が教育を行い、現地化を進めているところもある。パラグアイ国内にエンジニアも多く、困ることはあまりないが、足りない人材がいれば、ブラジルやアルゼンチンから招くこともある。 ・パラグアイは内陸国のため、他国との行き来が盛んであり、外国人材の受入れに対する抵抗感は低い。 ・日本食や日本語学校、日本のカリキュラムで教える学校もあり、日本人にとって受け入れ体制が整っている国である。 ・パラグアイは食糧、電力が豊富で、電気は100%水力発電によるため、CO2排出規制による影響も受けづらいという利点がある。 ・パラグアイは日本から遠いため、資料だけではその良さが伝わらない。実際に来てもらえばパラグアイのいい点が必ず伝わると考えているため、来てもらうための仕掛け作りが必要である。 ・ITや映像作成分野で、日本が夜の間作業を進めている企業があり、日本との

	<p>12 時間の時差をうまく利用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの日系社会には、「昔の日本」がある。移住一世から受け継いだ習慣が守られており、縁日や夏祭りも活発に行われている。 ・パラグアイでは日本のアニメが人気であり、アニメで何を言っているか知りたいために日本語を学ぶ人が多く、アニメをきっかけに他の日本文化にも興味を持ってもらえている。日本文化へのあこがれが強く、日本のイベントを行うと、来場者の9割がパラグアイの人ということもある。 ・日本の経済発展は、参考になる歩みと捉えられている。
意見交換等	<p>○：当方コメント ●：先方コメント</p> <p>○ジェトロによるパラグアイへのビジネスミッション派遣が行われていたようだが、その概要は。</p> <p>●日本企業やブラジルに進出している企業 40 社前後がパラグアイを訪問し、パラグアイに進出している日系企業や日系移民が経営する企業を視察（コロナウィルスの影響により、中断している。）。</p> <p>○日本からパラグアイに進出し、法人を設立する場合、会社法、雇用法等に関する障壁はあるか。</p> <p>●法人の設立にはいくつかの方法があるが、最も簡易な方法だと一週間程度で設立が可能。パラグアイ政府が政策的に簡易化しており、他国と比べ、難しい点はない。</p> <p>●商工会議所として、帳簿の付け方等の直接的な指導はしていないが、会員にスペシャリストもおり、法人設立についてサポートが可能。</p>



懇談の様子



記念撮影

(7) ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑参拝・日本館見学

日 時	令和5年11月14日(火)8:30~9:30
場 所	イビラプエラ公園内
対応者	ブラジル日本都道府県人会連合会 副会長 谷口 ジョゼ 眞一郎 氏、 同 副会長 大間知 アウフレッド 諒士 氏 ブラジル日本文化福祉協会 日本館運営委員会委員長 栗田 クラウジオ氏

<p>内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル日本都道府県人会連合会 谷口副会長から慰霊碑建立に至った経緯、祀られている先没者について説明を受けた (①) 後、内部にまわり参拝。 ・続いて、知事、議長による記帳 (②) の後、記念撮影 (③)。 ・その後、慰霊碑に隣接した日本館 (④) を訪れ、栗田氏の案内で同館を見学し、説明を受ける (⑤)。 ・最後に、日本館正面で記念撮影 (⑥)
<p>説明要旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑は、過酷な労働により亡くなった初期開拓移民やブラジルの地を踏むことなく、船中で亡くなった方等の先駆者を弔うため、ブラジル日本都道府県人会連合会がサンパウロ市民の憩いの場であるイビラプエラ公園内に建立した碑である。 ・日本からの入植者を乗せた笠戸丸がサントスふ頭に到着した日である6月18日に、毎年行われる慰霊碑参拝は、ブラジル日系社会において欠くことのできない公式行事であり、慰霊碑はブラジル移民の心情的拠点となっている。 ・日本館は、1954年にサンパウロ市政400周年を記念して日本政府とブラジルの日系社会が協力して建築した純日本式建築である。 ・サンパウロ市政400周年時、日本館だけでなく、各国を象徴する建物をそれぞれの移住者が建てたが、そのうち現存するのは日本館のみとなっている。これは、日本館が高く評価され、取り壊しをせず保存されることとなったためであり、1997年にはサンパウロ市の永久保存建築物に指定されている。 ・ブラジルでは、第二次世界大戦後、日本の勝利を信じるグループである「勝ち組」と、敗戦の事実を認識したグループである「負け組」との間で激しい対立があったが、日本を象徴する建物である日本館の建設が両者の和解の契機になったとも言われている。 ・日本館は、書院造の建物に日本庭園や錦鯉が泳ぐ池を備え、また、館内には日本の伝統的な美術品を展示している(訪問時は、一部非公開)ほか、日本のお土産を販売するショップも併設している。





(8) 在サンパウロ日本国総領事館訪問

日 時	令和5年11月14日(火)10:00~11:00
場 所	在サンパウロ日本国総領事館
対応者	首席領事 小室 千帆氏、領事 市山 拓氏
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人がブラジルに移住してから115年が経過し、現在では約200万人の日系人が居住している。 ・ブラジルは、石油、鉱物、再生可能エネルギーが豊富。 ・サトウキビを原料としたバイオエタノールが生産されており、バイオ燃料で走るハイブリッド車が定着している。 ・日本における在留ブラジル人は、一時30万人に達していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う雇止め等の影響で帰国者が増え、現在では21万人程度となっている。 ・日本、ブラジル間では、これまでブラジルに入国する日本人に対してのみ、観光などを目的とした短期滞在査証(ビザ)が一方向的に免除されていたが、本年9月30日から、ブラジルから日本に入国するブラジル人へのビザが免除され、相互免除が実現した。 ・サンパウロ市は、1,000万人を超える人口を擁し、GDPは2.4兆リアルにも達すると言われており、サンパウロ市民は、同市はブラジル、アルゼンチンに次いで、南米第3位相当の実力があるとの自負を持つ。 ・日系人のおかげで、サンパウロで日本の文化が定着しており、後からブラジルを訪れる日本人は、その恩恵を受けることができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催される日本祭りでは、各県の名物料理が並び、香川県人会もブースを出展し、うどんを販売している。 ・ブラジルの日系社会における課題としては、世代交代と若手の参画が挙げられる。ブラジルでは地方に大学がなく、若者が進学のため都市部に移ることで、地方に若手がいなくなり、特に地方の日系団体で弱体化がみられる。 ・日系四世を対象とした日本の査証は、30歳以下であること、無償で支援してくれるサポーターが必要なこと、家族の帯同ができないことなどの要件があり、対象者が限られている。
意見交換等	<p>○：当方コメント ●：先方コメント</p> <p>○日本は現在、人手が不足しているが、今後ブラジルからもっと多くの方に日本に来てもらえる余地はあるか。</p> <p>●日本の賃金が相対的に安くなっており、魅力が低下している。日本人からすると、日系人に来てほしいとの想いがあると思うが、近くのアジアでも日本に関心があり、日本語を勉強している人は多いので、わざわざ遠いブラジルから来てもらう必要性は低いと考える。</p> <p>○ブラジルから日本は遠いが、観光で日本に来てもらえるか。</p> <p>●短期滞在ビザの相互免除が実現し、今後観光客は増えていくのではないかと。ブラジルの富裕層は長期間の海外滞在をし、体験型のプログラムを好む。造り酒屋や陶芸のプログラム等は受けがいいと思う。</p>



ブリーフィングの様子



記念撮影

(9) ジャパン・ハウス・サンパウロ訪問

日時	令和5年11月14日(火)11:30~12:30
場所	ジャパン・ハウス・サンパウロ
対応者	副館長 カルロス・ホーザ氏、運営局長 栗田 クラウジオ氏 外
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスにて、ジャパン・ハウス・サンパウロの概要説明を受けた(①)後、展示室でこの日から開催された「ロボットとの共生展」について説明を受ける(②)。 ・続いて、日本に関する商品を販売するショップ、書物を展示しているライブラリ

	<p>ー (③) を見学。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念撮影後 (④)、会議室に移動し、知事から四国遍路、瀬戸内国際芸術祭等について、プレゼンテーションを実施し、意見交換を行う (⑤、⑥)。
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャパン・ハウス・サンパウロの来館者は、平日約 1,500 人、休日約 3,000 人。 ・隈研吾氏が設計した檜のファサードには、釘をいっさい使わず仕上げられており、サンパウロの名所となっている。 ・ジャパン・ハウス・サンパウロは、約 2,500 m²、3 階建ての施設で、様々な企画展を開催するほか、カフェやショップを併設し、日本に関する情報を発信している。 ・欧米では、ロボットは、産業用機械に代表されるように、人間の労働に役立つことが前提となっているが、日本のロボットは、ペットと同じような位置づけで人に寄り添い、癒しを与えるものもあり、注目を集めている。
意見交換等	<ul style="list-style-type: none"> ・知事から四国遍路、瀬戸内国際芸術祭、ヤドンについてプレゼンテーションを実施し、それぞれの説明やジャパン・ハウス来場者への紹介に関する協力依頼を行った。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ジャパン・ハウス・サンパウロからのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャパン・ハウス・サンパウロでアンケートを実施したところ、興味のある分野として最も挙げられたものは「観光」であった。日本とブラジルの間で短期滞在査証の相互免除が実現したことにより、ブラジルから日本へ訪れる観光客も増えていくのではないかと。 ・香川県に関する情報発信について、具体的なことはこれから検討していくことになるが、外務省とも相談し、一緒になって考えたい。 ・ブラジルでは、キリスト教の巡礼地であるスペイン サンティアゴへの巡礼路を訪れる人も多い。ジャパン・ハウス・サンパウロでも、2021 年 1 月にブラジル人で四国八十八箇所霊場を回ったことがある方を講師に招き、遍路に関する講演を行ったことがあり、遍路に対して興味を持ってもらえると思う。 ・2 年に 1 度、現代美術の展覧会であるサンパウロ・ビエンナーレが開催されるように、ブラジル人はアート作品の鑑賞を好む。瀬戸内国際芸術祭を訪れたことがある人にも会ったことがある。 ・2021 年に瀬戸内海に面した 7 県の食をテーマにしたオンラインイベント「せとうち探訪」を行い、各県の魅力や歴史、料理を紹介したこともあり、ジャパン・ハウス・サンパウロとしても、瀬戸内海に注目している。



(10) ブラジル香川県人会員農園訪問

日 時	令和5年11月14日(火)15:55~18:00
場 所	ブラジル香川県人会 川染氏 花卉農園
対応者	川染 正春氏、川染 エリヲ氏
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・川染氏の花卉農園 (①) にて、ハイビスカスを中心とした花卉栽培の様子を見学 (②) するとともに、ブラジルにおける花卉マーケットの状況や入植当時の様子について説明を受ける (③)。 ・その後、隣接する川染氏の自宅に移動し、エリヲ氏から日本での技術研修について、当時の写真を見ながら説明を受ける (④)。
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・川染エリヲ氏が技術研修員として香川県農業試験場で学んだ技術を生かして花卉を栽培している。 ・日本で入手したハイビスカスに挿し木を続け、数を増やしてきた。 ・ブラジルでは結婚式に大量の切り花を使うが、各家庭で花を購入し、飾るという習慣はなく、苦勞した。

・様々な分野で日系人がブラジル1の生産者になっている。バナナやレタス、胡蝶蘭などのほか、ブラジル国内に100店舗以上を展開する高級家電量販店を経営している方もいる。

①



②



③



④



(11) ブラジル香川県人会歓迎夕食会

日 時	令和5年11月14日(火)20:00~22:15
場 所	レストラン「D' Brescia Churrascaria」
出席者	サンパウロ総領事館 領事 市山 拓氏 ブラジル香川県人会役員・元研修生 外 17名 (顧問 浜岡 政晴氏、会長 高橋 エルザ氏 外) 香川県派遣大学生4名・引率者
内 容	・ 県人会側出席者、訪問団の紹介後、高橋会長から開会の挨拶 (①)。 ・ 続いて、知事 (②) 及び市山領事の挨拶後、議長による乾杯の発声 (③)。 ・ 歓談の後、記念撮影 (④)、閉会。
高橋会長 挨拶要旨	・ 訪問団各位は、今朝早くから慰霊碑参拝や総領事館訪問、会員の農園への訪問等、精力的に活動されていた。 ・ 12時間の時差があるため、体調にお気をつけいただきたい。 ・ 本日は、役員以外にも、元研修生も集合しているので、歓談いただけると幸い。 ・ 訪問の無事を記念して挨拶とさせていただきます。

①



②



③



④



(12) ブラジル香川県人移住 110 周年記念式典・昼食会

日 時	令和 5 年 11 月 15 日(水) 記念式典 10:00～12:00 昼食会 12:00～15:00
場 所	南米香川県人会館
出席者	来賓 在サンパウロ日本国総領事館 首席領事 小室 千帆氏 同 領事 市山 拓氏 ブラジル日本都道府県人会連合会 会長 市川 利雄氏 JICA 国際協力機構ブラジル事務所長 江口 雅之氏 北伯香川県人会 会長 稲垣 てい子氏 外 県人会会員、他県県人会長、日系団体役員等 約 200 名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル香川県人会菅原副会長の開会の辞に続き、南米大神官宮司による移住先没者への追悼 (①)、ブラジル・日本両国歌斉唱。 ・その後、訪問団及び来賓紹介、高橋会長による主催者挨拶 (②) に続き、池田知事 (③)、新田議長 (④)、小室首席領事、ブラジル日本都道府県人会連合会 市川会長による祝辞。 ・次に、池田知事から高橋会長への憲法記念日知事表彰 (⑤)、池田知事及び新田議長から移住高齢者表彰 (⑥)、記念品贈呈等が行われる。 ・引き続き、高橋会長からブラジル香川県人会功労者表彰が行われた後、日系議員からの祝辞、元研修生代表者からの挨拶 (⑦)、閉会の辞 (⑧)。 ・記念撮影 (⑨) の後、会場を移動し、昼食会が催される。 ・昼食会は、高橋会長、池田知事、新田議長によるケーキカット (⑩) で開始され、新田議長による乾杯の発声 (⑪) 後、歓談 (⑫、⑬)。

	<ul style="list-style-type: none"> ・途中、香川県から派遣の大学生による香川県を紹介するプレゼンテーション (⑭)、県人会が作成した動画上映 (⑮)、県人会剣道部による実演 (⑯)、香川県大学生のお手本による盆踊り (⑰) 等の催しを行い、記念撮影 (⑱) の後、閉会となる。
高橋会長挨拶要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・本日このような式典を開催することができたのは、母県の支援と歴代会長の尽力、剣道や空手等の文化活動の賜物である。 ・県人会館には、歴代の県人会長の写真を飾っており、ここで紹介させていただくとともに、お礼申し上げます。 ・これからもブラジル香川県人が110年に渡り築き上げてきた先人の功績を胸に、さらなるブラジルの発展に貢献し、母県との交流、友好関係がより活発になることを望む。

①



②



③



④



⑤



⑥







(13) 在ロサンゼルス日本国総領事表敬訪問

日 時	令和5年11月17日(金)9:30~10:20
場 所	在ロサンゼルス日本国総領事館
対応者	総領事 曾根 健孝氏、首席領事 青島 尚重氏 外
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでできることも増えたが、直接見て、聞いて、感じる事が重要と考える。ロサンゼルス日系人は、戦時中に強制収容される厳しい経験をしている。差別的な扱いを受け、二世、三世の中には、家でも日本語を話さず、アメリカ人としてのアイデンティティを強く持つ方も多かったが、四世の時代になり、日米関係が修復し、アメリカに住む日系人の活動が盛り上がってきた。 ・日系人のイベントでは、どこでも太鼓のパフォーマンスをしており、非常に人気が高い。その他、日本舞踊や詩吟等も注目されている。
意見交換等	<p>○：当方コメント ●：先方コメント</p> <p>○インバウンドの誘致に力を入れたい。香川県では、2010年から瀬戸内国際芸術祭を開催しており、次回、第6回芸術祭を開催予定の2025年は、大阪・関西万博開催の年でもあり、2025年日本国際博覧会協会とも共同でPRしていきたいと考えている。</p> <p>●ジャパン・ハウス・ロサンゼルスで、JNTO（日本政府観光局）が観光に関する情報発信をしている。他県知事や国内の鉄道会社もジャパン・ハウスを訪れ、PRをしているので、香川県もジャパン・ハウスの活用を検討してはどうか。</p> <p>●ジャパン・ハウス・ロサンゼルスで先日、犬島に関する展示を行った際は、来場者が多かった。ジャパン・ハウス・ロサンゼルスは、ハリウッドにあり、エンタテインメントの良さを活かせるという、他のジャパン・ハウス（サンパウロ及びロンドン）にはない特徴があるので、是非活用してほしい。</p> <p>○農産品の展開、オリーブ牛の普及に注力している。オリーブ牛は、肥料として用いているオリーブに含まれるオレイン酸を多く含み、健康的である。今後、アメリカへの本格的な進出を図りたい。</p> <p>香川県が誇る松盆栽のうち、黒松については、EUにおける輸入が規制されていたが、4年掛かりで規制をクリアし、令和2年に輸入が解禁された。アメリカにおいては、現時点で黒松の輸入が禁止されているが、農林水産省と連携しながら</p>

	<p>ら、黒松を展開できるよう活動していきたい。</p> <p>●毎年8月に、ロサンゼルス日本人街「リトル東京」で開催される二世ウィーク（日本人と日系アメリカ人の文化・歴史を祝う祭り）中に、日米文化会館で盆栽の展示がされた。盆栽については、日本人以上にアメリカ人が注目していると思う。</p>
--	--



懇談の様子



記念撮影

(14) 全米日系人博物館訪問

日 時	令和5年11月17日(金)10:30~12:00
場 所	全米日系人博物館
対応者	渉外担当ディレクター 三木 昌子氏
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・到着後 (①)、渉外担当ディレクター 三木氏の案内で、館外に展示されている宮武東洋氏（香川県出身の写真家、戦時中に強制収容所で暮らす人々の記録写真を撮影し、高く評価される）のカメラをモチーフにした作品を見学 (②)。 ・続いて、館内に移り、強制収容所内で日系人が居住を強いられたバラック (③) や日本人がアメリカへ移住を開始してから戦中に至るまでの写真 (④、⑤)、収容時に日系人が持ち運べた荷物 (⑥)、収容所の模型 (⑦)、当時の映像等について、説明を受ける。 ・最後に、記念撮影 (⑧) を行う。
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県出身の宮武東洋氏は、戦時中に強制収容された際、隠れてカメラを組み立て、そこで暮らす人々を撮影、記録し、後に高く評価された。 ・日本人のアメリカへの移住は、明治元年のハワイへの出稼ぎに始まる。日本人が持ち込んだ着物や浴衣を仕立て直してシャツにしたものが、後にアロハシャツとして広まった。また、日本の草履がビーチサンダルの原型になるなど、日本の文化がハワイに与えた影響は大きい。 ・戦時中の日米関係悪化により、アメリカに住む日系人は差別的扱いを受けてきたが、真珠湾攻撃をきっかけとした日米開戦により、日系人は「敵性市民」と扱われることになり、西海岸に住む日系人を中心に、収容所へ送られることになる。アメリカに住むドイツ移民やイタリア移民は、強制収容をされず、人種差別的な側面があった。

- ・アメリカの中でも、ハワイに住む日系人が最も多かったが、当時の住民の4割にものぼる日系人を収容することが不可能なことから、ハワイにおいては、日系組織の指導者や役員に限った収容となった。一方、アメリカ西海岸に住む日系人は、すべての人が強制収容の対象となった。
- ・強制収容所には、短期間で一人当たりトランク2つに荷物をまとめ、移る必要があったため、財産の大半を没収されるか、買い叩かれることになった。
- ・戦後、日系人の名誉回復や強制収容により被った損害への賠償は、長きに渡り果たされることがなかったが、日系三世を中心とした運動の結果、1988年のレーガン大統領による強制収容を経験した日系人への謝罪と賠償により、一区切りをつけるに至った。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



(15) ジャパン・ハウス・ロサンゼルス訪問

日 時	令和5年11月17日(金)12:30~13:55
場 所	ジャパン・ハウス・ロサンゼルス
対応者	館長 海部 優子氏 外
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・海部館長から、展示室で開催中の「Pokemon × 工芸展」の説明を受けた (①) 後、JNTO (日本政府観光局) ブースに展示された香川県パンフレットを含む資料を確認 (②)。 ・その後、ショップで扱う商品の説明を受け (③)、館内のレストランに移動し、知事からシェフに香川の県産品を説明 (④)。 ・引き続き、サロンにて知事から瀬戸内国際芸術祭、四国遍路、香川漆器等について、プレゼンテーションを実施し、意見交換を行う (⑤)。 ・最後に、記念撮影を行う (⑥)。
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ポケモンはアメリカでも人気が高く、開催中の「Pokemon × 工芸展」も注目を集めている。 ・土曜日、日曜日には JNTO のブースにスタッフが配置され、日本観光に関する説明を行っている。 ・館内のレストランは、本年6月にオープンした。これまでも、兵庫県が食材を送り試食会を行っており、レストランを活用したイベントの開催を検討してはどうか。
意見交換等	<ul style="list-style-type: none"> ・知事から四国遍路、瀬戸内国際芸術祭、香川漆器、盆栽、ヤドン等についてプレゼンテーションを実施し、情報発信について海部館長から意見をいただいた。 <p>海部館長のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国全体が魅力に溢れた島だと感じる。各県に特色があることもおもしろい。 ・アメリカには、長い歴史に培われた県民性といったものがなく、魅力である。 ・ジャパン・ハウスのサロンでスライドやパワーポイントによるPRを行うことは可能。香川フェアのような食文化のイベントを開催すると効果的と考える。 ・ロサンゼルスでも日系人や日本人の間で盆栽の会がある。





(16) ハンティントン財団庭園訪問

日 時	令和5年11月17日(金)15:30~17:35
場 所	ハンティントン財団庭園
対応者	理事長 カレン・ローレンス氏、財団管財人 サイモン・リー御夫妻、 専門学芸員 ロバート・ホリ氏 外
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・庭園来客用車寄せにて、サイモン・リー氏らによる出迎え、その後財団側の案内により、デザート・ガーデン、中国庭園、日本庭園(①)を經由し、Shoya House(②)に向かう。 ・Shoya House 見学、概要について説明(③)を受けた後、ハンティントン庭園で管理する盆栽について説明を受ける(④)。 ・リサーチセンターへ移動し、応接室にて財団理事長 カレン・ローレンス氏への表敬(⑤)及び記帳(⑥)。 ・会議室にて知事から財団管財人 サイモン・リー氏他へのプレゼンテーション及び意見交換(⑦)。 ・記念品贈呈後(⑧)、記念撮影(⑨)。
意見交換等	<p>・知事から瀬戸内国際芸術祭、盆栽、香川漆器等についてプレゼンテーションを実施し、その後、意見交換を行った。</p> <p>○：当方コメント ●：先方コメント</p> <p>●Shoya house の移築にあたり、ハンティントン財団の多くの者が解体から立ち会い、いい経験をする事ができた。日本の伝統的なクラフトマンシップに触</p>

れ、感動して帰ってきている。

- Shoya house の公開を契機に、日本の木造建築に興味を持つ方が増えたと感じている。日本の職人を招き、デモンストレーションをしてもらうことができればと考えている。
- 県の PR にもつながる取組と考える。
- 黒松のアメリカでの輸入規制をクリアし、将来的に、ハンティントン財団庭園内でたくさんの盆栽が見ていただけるようになればと考える。
- 盆栽については、輸入の問題がクリアできれば、是非受け入れていきたいと考えている。プレゼンテーションの写真からも黒松の美しさが分かる。
- アメリカにも漆器に興味を持つ方がたくさんいる。展示などができないかと考えている。
- 香川漆器の貸出が可能であり、是非検討いただきたい。
- ハンティントン財団庭園内の美術館でも現代美術のアーティストの作品を展示している。今後、素晴らしいアーティストが出てくれば、瀬戸内国際芸術祭に作品やアーティストを推薦することが可能か。
- 財団から推薦いただいた方を芸術祭の総合ディレクターに推薦することは可能と考える。

ハンティントン財団からの提案事項

- ・ハンティントン財団と栗林公園との間での庭園管理に関する人的交流
- ・Shoya house を活用した伝統工芸品などの展示・紹介
- ・瀬戸内国際芸術祭等でのアーティスト等の交流
- ・2024 年の財団関係者の香川県への訪問

①



②





(17) 在ロサンゼルス日本国総領事との夕食会

日 時	令和5年11月17日(金)19:00~21:00
場 所	在ロサンゼルス総領事公邸
対応者	総領事 曾根 健孝氏、首席領事 青島 尚重氏、領事 中村 晴彦氏
内 容	・曾根総領事より夕食会形式のブリーフィングを実施いただく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・夕食会後、記念撮影。
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・オリーブハマチについてはデイリーフーズ（ニッポンハムのグループ企業）が通常でもロスに入れており、昨日の県人会昼食会でも提供されていた。 ・愛媛のみかんブリは農水省関係の団体が行ったイベントで出展されていた。その際は「さばき女子」が解体ショーを行い、人気があった。 ・こちらではSushi & Sake Festivalというイベントが11月くらいに開催されており、そこでオリーブハマチを出すという事も考えられるのではないかと。 ・こちらでは、漁業資源の保護やサステナブルの面から天然物の魚より養殖物の魚が好まれる。 ・農産物については相互主義であり、スイカなどもまだ米国には輸出で来ていない。 ・盆栽については、日米文化会館で展示を行ったりしていて、米国人にも人気がある。栽培の仕方を教える「栽培110番」などのイベントをやれば絶対に受けるだろう。また、盆栽ガールズも受けると思うので、こちらでPRしたらよいのではないかと。ハンティントンとの交流中に派遣するのもよいのでは。遍路ガールズもよいかもしれない。 ・ロスの県人会で最も古いのは鹿児島県125周年（香川県人会は3年後に125周年）。



食事前の懇談の様子



記念撮影

(18) Tokyo Central Gardena 店視察

日時	令和5年11月18日(土)8:15~9:00
場所	Tokyo Central Gardena 店
対応者	店長 ヒロコ・ヨシアキ氏 外
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシアキ店長のアテンドにより、店内を見学。 ・店舗で開催される催事の説明等を受ける。 ・見学終了後、記念撮影。
説明要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、東北フェアを開催中である。四国フェアではこれまで香川県からの出展はないが、出展していただける事業者があればPRする。 ・アメリカ人にも寿司は人気で、店舗内に寿司マシーンを設置、機械で握って販売

している。

- ・ 11月23日～29日まで宇和島パールフェアを開催する予定である。商品は委託販売ではなく当社（東京本社）での買取りである。
- ・ 現在当店で香川県のは醤油（マルキン、タケサン、鎌田醤油）、ごま油（かどや）。うどんはドン・キホーテとコラボの石丸製麺の乾麺（他に「丸亀 釜揚げうどん 讃岐饅頭」と書いている商品があったが製造者は未記載で販売者が岡山県の企業）。
- ・ 日本の調味料などの需要は多く、たくあんや紫蘇漬け、からし高菜なども売れている。佃煮なども売れるのではないかな。
- ・ 日本のコメやお茶なども人気で、多種類を販売している。
- ・ 和牛については、現在A4ランクの鹿児島産和牛を販売している。
- ・ こちらで販売している日本産商品は、基本的に日本の本社が取り扱っている商品であり（店舗側からの提案も可能ではあるが）、店舗での取り扱いを希望するものがあれば、本社側に商品提案していくのが早いだろう。



商品説明



記念撮影

令和5年度南米・北米訪問事業 日程表

	日付	国	現地時間	日本時間	行動予定	宿泊
1	11/10(金)	日本	11:40		高松空港発、羽田空港へ	
			12:50		羽田空港着	
			16:25		羽田空港発、空路ロサンゼルスへ	
		アメリカ	9:10	翌2:10	ロサンゼルス国際空港着【時差: -17時間】	
			11:20	翌4:20	ロサンゼルス国際空港発、空路リマへ	
			22:55	翌12:55	ホルヘ・チャベス国際空港着	
						(機中泊)
2	11/11(土)	ペルー	0:30	14:30	ホルヘ・チャベス国際空港発、空路アスンシオンへ	
			6:15	18:15	シルビオ・ペティロッシ国際空港着【時差: +2時間】	
			14:15~ 15:25	翌2:15~ 翌3:25	日系社会福祉センター訪問	
			19:15~ 21:25	翌7:15~ 翌9:25	パラグアイ香川県人会歓迎夕食会	
						アスンシオン泊
3	11/12(日)	パラグアイ	10:30~ 12:00	22:30~ 翌0:00	パラグアイ香川県人会創立50周年記念式典	
			12:30~ 14:30	翌0:30~ 翌2:30	パラグアイ香川県人会創立50周年記念祝賀会	
						アスンシオン泊
4	11/13(月)	ペルー	10:30~ 11:50	22:30~ 23:50	JICAパラグアイ事務所訪問	
			13:00~ 14:30	翌1:00~ 翌2:30	在パラグアイ日本国大使公邸での懇談会	
			14:45~ 16:00	翌2:45~ 翌4:00	在パラグアイ日本商工会議所訪問	
			18:20	翌6:20	シルビオ・ペティロッシ国際空港発、空路サンパウロへ	
			20:30	翌8:30	グアルーリョス国際空港着【時差: 0時間】	サンパウロ泊
5	11/14(火)	ブラジル	8:30~ 9:30	20:30~ 21:30	ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑参拝・日本館見学	
			10:00~ 11:00	22:00~ 23:00	在サンパウロ日本国総領事館訪問	
			11:30~ 12:30	23:30~ 翌0:30	ジャパン・ハウス・サンパウロ訪問	
			15:55~ 18:00	翌3:55~ 翌6:00	ブラジル香川県人会会員農園訪問	
			20:00~ 22:15	翌8:00~ 翌10:15	ブラジル香川県人会歓迎夕食会	
6	11/15(水)	ペルー	10:00~ 12:00	22:00~ 翌0:00	ブラジル香川県人移住110周年記念式典	
			12:00~ 15:00	翌0:00~ 翌3:00	ブラジル香川県人移住110周年記念昼食会	
			21:15	翌9:15	グアルーリョス国際空港発、空路リマへ	
7	11/16(木)	ペルー	0:15	14:15	ホルヘ・チャベス国際空港着【時差: -2時間】 ※到着遅延に伴い、ロサンゼルス行の便が変更となる	
			12:00	翌2:00	ホルヘ・チャベス国際空港発、空路ロサンゼルスへ	
			18:30	翌11:30	ロサンゼルス国際空港着【時差: -3時間】	
						ロサンゼルス泊
8	11/17(金)	アメリカ	9:30~ 10:20	翌2:30~ 翌3:20	在ロサンゼルス日本国総領事表敬訪問	
			10:30~ 12:00	翌3:30~ 翌5:00	全米日系人博物館訪問	
			12:30~ 13:55	翌5:30~ 翌6:55	ジャパン・ハウス・ロサンゼルス訪問	
			15:30~ 17:35	翌8:30~ 翌10:35	ハンテントン財団庭園訪問	
			19:00~ 21:20	翌12:00~ 翌14:20	在ロサンゼルス日本国総領事との夕食会	
9	11/18(土)	ペルー	8:15~ 9:05	翌1:15~ 翌2:05	Tokyo Central Gardena店視察	
			12:30	翌5:30	ロサンゼルス国際空港発、空路羽田へ	
						(機中泊)
10	11/19(日)	日本	17:40		羽田空港着【時差: +17時間】	
			20:50		羽田空港発、空路高松へ	
			21:55		高松空港着	

※ 11月15日(水)の航空便(サンパウロ発)が天候不良により遅延したことに伴い、ロサンゼルス到着が当初予定より約11時間遅れとなったことから、16日(木)に予定していた「南カリフォルニア香川県人会との懇談会」への出席、「Tokyo Centralとの意見交換会」の開催はキャンセルとなった。

知事所感

今回私が知事に就任してから初めての南米、北米訪問でしたが、それぞれの国に香川県から移住をされた方と本県との交流が先人からずっと続いており、この交流のバトンをしっかり引き継げたという思いです。そしてブラジル、パラグアイそれぞれの国で我が県から移住された方、日本から移住された方々が日系の社会を築いており、それぞれの国で活躍をしておられて、それぞれの国で大きな信頼を得ているということに改めて私も認識をいたしました。今後我が県とそれぞれの国の経済社会の新しい交流に向け、大きな力となっただけの心強い存在であると思えました。

南米においては「パラグアイ香川県人会創立 50 周年記念式典」そして「ブラジル香川県人移住 110 周年記念式典」に出席をしまして、祝意を表するとともに、移住された方々の労苦に敬意を表したところであります。式典には、パラグアイでは約 90 名、ブラジルでは約 230 名の方々が参加をされまして、それぞれの県人会の会長や役員をはじめ、会員の方々には香川県からの訪問を大変喜んでいただきました。こうした方々と顔を合わせてお話をし、これまで先人の方が築いてきた交流の絆をより一層深めることができたのではないかと考えております。県人会の皆様方からは、交流を次の世代に繋げていくために、香川県で取り組んでいる交流事業を継続して、さらなる拡充をしてほしいとのお話がありました。今後検討したいと思えます。

これまで長い間築いてきた、それぞれの国及びその日系の社会、特に県人会とのこれまでの交流の絆、換言すれば信頼関係をこれからもきちんと繋げていくことの重要性を認識しました。

また、訪問した各国のいろいろな団体も含めた意見交換において、産業面や観光面での、さらなる香川県、また日本とそれぞれの国との交流の拡大につきまして、関係機関から具体的な提案があり、こちらからも具体的な提案を行って、今後の足がかり

とできたと考えております。

パラグアイは、南米の内陸国で、物流の面でちょっと難があったのですが、後5年以内に、チリからブラジルに向けての東西の高速道路が開通予定で、内陸のハンディキャップも解消されます。もともと人件費は安くて、電力費も安くて、治安も南米一良くて、水道も安い、水が豊富で電力が全部水力発電、そういう意味では、製造拠点としては大きなメリットが幾つもあるので、いろいろな世界の国も注目して投資を考え始めているということなので、この話は香川県内の企業にもお伝えをしたいと思います。また、パラグアイ、ブラジル両国ともですが、人口が増加している中で、日本への関心は非常に高く、日本で働いてみようかという方も大勢いそうだと思います。日本全体が人材不足の中、パラグアイ、ブラジルも、今後検討の余地があるのではないかと思います。

また、北米において、栗林公園と姉妹庭園提携しているハンティントン財団庭園を訪問しまして、本県から移築した日本家屋の視察をしました。そしてハンティントン財団からは、今後香川県とこの庭園にかかわらず文化芸術全般について財団と香川県で交流をしていきたいとの提案がありました。今後検討したいと思います。

また、ブラジルのサンパウロやロサンゼルスにはジャパンハウスという日本を紹介する施設があり、その館長より県産品の販路拡大やインバウンドの誘致について具体的な提案も受けました。特にロサンゼルスについては、2028年ロサンゼルスオリンピックに世界中から多くの方が訪れると聞き、そこで香川県フェア開催の提案を受けました。今後検討をしていきたいと思います。

今回の訪問が本県と訪問した各都市との経済社会のいろいろな交流に繋がるよう、今回得られた新しい交流の足がかりを発展させていきたいと思います。

知事懇談メモ

	懇談者	テーマ	内 容
11月11日	パラグアイ香川県人会	1 香川県人会の状況 2 パラグアイと日本へ経済協力 3 移民2世3世の生活 4 パラグアイの農業への移民の活躍 5 香川パラグアイふるさと香川プラザ	①パラグアイの日本人の県人会は現在13県ある。 香川県人会は歴史的にもまた現在もその中心的存在となっている。 ①パラグアイと日本の経済交流の最大のネックは物流コストである。一方、パラグアイの人件費は安く（最低賃金1か月約5万円）パラグアイでの生産による近隣諸国への輸出はビジネスチャンスがある。 ②パラグアイの最大産業の一つは農業。主要作物はとうもろこし大豆、さとうきび。（これを生かしてS A F（持続可能な航空燃料）の生産拠点とできないか） ①最初の移民である笠松尚一を誇りに思う。 ②女性の地位の低いパラグアイで父のおかげで高い教育を受け現在も文筆業をしている（女性の地位向上に向けた発信をされている）。 ③娘は医者となり日系人の診療で重宝されている。 ①パラグアイの野菜は日本からの移住者により開発された。パラグアイは野菜を食べる習慣は無かったが近年野菜を食べるようになった。この食文化は日本人移住者がつくったものである。 ①以前用地買収したものがやっと完成した。自分の家に併設しており、「県産品直売・展示、経済交流の場所」として活用できないか県人会とも相談して欲しい。
	パラグアイ日系・日本人会連合会	1 パラグアイ日系日本人会連合会について 2 日本からパラグアイへの移民の暮らしぶり等	連合会の主要な事業は次のとおり。 ①移民の子孫への日本語教育。 ②日系高齢者福祉事業（集会、企画、実施）。 ③日系3・4世等の宿舍提供（地方からアスンシオン進学）。 ④移住関係資料の整理。 ①移住資料はデジタル化を進めるので、貸し出しができる。（県内での移住展の際の貸し出しを依頼した） ②大木伐採やバッタ大群には苦しんだ。
11月12日	パラグアイ兵庫県人会	パラグアイの対日経済交流	①日系企業のパラグアイ支店がブラジルに吸収されてきた。これだけ日本との縁の深いパラグアイの拠点をなくすことは残念だ。 ②一方、治安の良さから拠点をブラジルからパラグアイに移した日本企業もあると聞いている。 ③トップが変わっても続く交流を希望する。
	在パラグアイ日本国大使館	パラグアイの親日度	①パラグアイの親日度は「超」がつく。 日本人移住80周年記念式典には大統領を含む三権の長が出席した。日本がパラグアイの農業を作ってくれたとの意識が強い。 ②パラグアイではもともと野菜を食べない。野菜を食べる習慣を広めたのは日本からの移民である。

	JICAパラグアイ事務所	パラグアイの日本食好き	<p>①パラグアイの人は日本人が好きだ。</p> <p>②日本食では、巻き寿司や焼きそばの人気の高い。</p>
	パラグアイ香川県人会	<p>1 移住者の歴史の発信</p> <p>2 日本の文化</p>	<p>①30年前に香川で研修をした。</p> <p>②移住者の歴史をまとめてSNSで発信している。</p> <p>③茶道などを茶室を設けて広げている。</p> <p>①日本各地の盆踊りや（小原風の盆踊り）浴衣の体験の人気の高い。（こんぴらふねふねのビデオ送る）</p>
11月13日	JICAパラグアイ事務所	パラグアイ日本の経済交流、人材交流等	<p>①日・パ交流展への展示参加を継続する。</p> <p>②パラグアイの日系社会への日本語教育への継続を求む。</p> <p>③日本企業が進出しやすい国としてパラグアイ（日系人は日本語教育レベルが高い事）をPRしたらいい。パラグアイを拠点に南米全体をマーケットとしたビジネスモデルが考えられる。</p> <p>④マキラ法（パラグアイから南米各国への輸出企業を支援する法）や高速道路（チリーパラグアイーブラジル）の2020年代完成見込みもあり、パラグアイへの企業進出は今後進むと思われる。</p> <p>⑤香川への労働者移住については、現在も日系人は日本に行っており、専門学校から仕事へ繋げるプロセスが重要。パラグアイは若い人が多く日本への渡航の可能性ある。（次男、三男は可能性高いかもしれない）</p> <p>⑥日本からの輸出としては農機具、肥料のニーズあるかもしれない。</p>
	在パラグアイ日本商工会議所	パラグアイへの日本企業の進出	<p>①経済が安定している。（GDP成長率4%）</p> <p>②インフラも改善してきた。</p> <p>③ベニヤ大統領の政策で50万人の雇用創出を目標、人材も豊富であり、今後成長すると予想されている。</p> <p>④パラグアイで生産して、ブラジル・アルゼンチンなどが輸出先として考えられる。</p> <p>⑤JETROビジネスミッションに40社が参加した。労働力は豊富である。</p> <p>⑥日本人の評価高い。住環境や受入れ環境が良い。</p>
11月14日	サンパウロ日本館	日本館の活用	①日本館で香川県産品のPRをしてはどうか。
	在サンパウロ日本国総領事館	日ブ交流及び日系団体の交流	<p>①短期査証免除（日本⇄ブラジル、90日間）（今後3年間）4世への査証発給要件緩和（ブラジル → 日本）</p> <p>②若い人への継承が大事。</p> <p>③ブラジルから日本への労働移住について。 （－）日本の賃金が安い （＋）日系4世査証の緩和</p> <p>④ブラジルから日本へコンテンツ、インバウンド今後増大する可能性がある。短期査証免除の効果が大きい。体験型等に関心が高い。</p>
	ジャパン・ハウス・サンパウロ	香川へのインバウンドについて	<p>①ブラジルではサンパウロロビエンナーレがあり、アートへの関心が高く、瀬戸内トリエンナーレにも関心が高いだろう。</p> <p>②2021年に瀬戸内テーマの展示を行った。ジーンズ等の関心が高かった。</p> <p>③同じく2021年に四国遍路を回ったブラジル人がここで講演した。</p> <p>④ジャパンハウスの建物は原研哉氏のコンセプト。2,500㎡、3階建て。</p> <p>⑤ジャパンハウスの活用は、東京の外務省戦略的対外発信拠点室と相談しながら行っていくとよい。</p>

	ブラジル香川県人会		<p>①香川への研修プログラム（海外技術研修員）の日本語レベル要件が高すぎる。</p> <p>②日系人のブラジルでの活躍を香川県人に知ってほしい。</p> <p>③うどんはブラジル人に好まれている。輸出増加の可能性はある。</p> <p>④剣道部の活動が熱心でこの活動は県人会活動の中心の一つである。</p> <p>⑤香川での研修のおかげで今の花卉栽培の成功がある。</p>
11月	北伯香川県人会	3世4世の日本への渡航について	<p>①日本に関心高い3世4世はたくさんいる。</p> <p>②日本で仕事をしたい方もたくさんいる。</p>
15日	ブラジル日本都道府県人会連合会	県人会と母国の交流の継続	<p>①在ブラジルの各県の県人会と母国各県との交流を次の世代につなげていきたい。</p> <p>②母国からの訪問継続や母国での研修の継続拡大をお願いしたい。</p> <p>③日本に対して関心の高い3世4世はたくさんいる。</p>
	日伯協会	日本への移住について	①香川県で老後住みたい気持ちはある。香川県の空き家への取組みにも興味をもった。
11月17日	南カリフォルニア香川県人会	<p>1 ハンティントン財団との新たな交流</p> <p>2 県人会の今後の体制</p> <p>3 2028に向けて</p> <p>4 瀬戸芸</p>	<p>①SHOYA House（旧横井邸）での様々な日本文化のイベント、和三盆作りの体験、丸亀うちわ作りの体験など体験型イベントが人気が出そうである。</p> <p>黒松は米国人の関心が高くこれを材料にした展示会も考えられる。</p> <p>①県会会はLAで香川県が行う販路拡大やインバウンド誘致などを目的としたイベント等のサポートを行っていききたい。</p> <p>留学生のサポートも重要な仕事と考えている。</p> <p>①2028のLAオリンピックに向け、各県（岐阜、北海道等）がアプローチをはじめている。2028は世界への発信の絶好の機会であり香川県も取り組んだらよいのではないか。</p> <p>LAの南のアーバインで世界の文化を紹介をするイベントがJNTOの主催で行われている。</p> <p>①瀬戸芸の期間に香川県内をいろいろ回ってもらうスタンプラリーなどのイベントが必要ではないか。</p>
	在ロサンゼルス日本国総領事館		<p>①ハンティントン財団庭園でのお茶などのイベントは面白い。</p> <p>②LAでは太鼓のイベントはいつも人気が高い。また日本文化（舞踏、詩吟、盆栽等）特に地方の文化は関心をもってもらえる。</p> <p>③ジャパンハウスでの犬島のイベントは大変好評だった。瀬戸内や島のPRは効果的。</p> <p>④うどんはLAでも大行列、ラーメン屋より混んでいる。</p>
	ハンティントン財団		<p>新しい提案を4つするので、検討して欲しい。</p> <p>①財団と県で庭師の人事交流をして、交流を拡大したい。</p> <p>②SHOYA House（旧横井邸）での日本の伝統工芸や芸術の紹介。</p> <p>③瀬戸芸への参加を含め、作品展示やアーティストの紹介、交流。</p> <p>④24年10月に20名ほで香川県に行くことにしている。</p>
	ジャパン・ハウス・ロサンゼルス		<p>①ジャパンハウスでの香川県フェアのようなものを考えてはどうか。</p> <p>②インバウンドや県産品のPRは効果的。</p>
11月18日	Tokyo Central		<p>①四国フェア楽しみにしている。</p> <p>②ハッピーグッズを送ってくれたらフェアで活用する。</p>